

順天堂大学医学部附属順天堂医院

新設の「一般病院3」、国際機関のJCIはエビデンスの提示を求める

特定機能病院の9割近くが認定を受けている病院機能評価。2017年より、特定機能病院向けの「一般病院3」が新設された。認証を受ける医療機関が増加しているJCIとともに第三者評価を受ける目的やメリットを紹介する。(2019年12月18日取材)

■ 第三者評価受審は医療の質向上が目的

順天堂大学医学部附属順天堂医院は、2003年に病院機能評価の「一般病院」の認定を受けて以来、2013年に「一般病院2」、2019年に「一般病院3」の認定を受けている。

また、同院は「医学教育とヒトに関する研究のプログラムを兼ね備えた大学病院の本院」としてJCI(Joint Commission International)の認証を2015年に日本で初めて取得し、2018年に認証を更新している。

「一般病院3」とJCIの双方を取得している医療機関は、全国的に見ても極めて珍しい。

これらの第三者評価の受審でリーダーシップをとる同院病院機能管理室副室長の堀賢氏は、「受審の目的は、これまで当院が永年実践してきた医療の方向性が適切であるかを再確認するため、もう一つは、現代の国際的医療水準に照らして、当院の立ち位置を客観的に見極めるためです」と語る。

副次的なメリットとしては、患者が抱く安心感、信頼感の裏付けとなること。意識が高い患者は、病院選びの際に第三者評価の結果を考慮する。JCIはまだ一般まで浸透しているとは言えないが、病院機能評価は知られ

た存在であるため、医療機関のホームページに認定を受けていることを掲出しているケースが多い。特定機能病院が複数存在する都市部では、周辺の医療機関が認定済みのため認定取得は“マスト”という状況すら見られる。

病院スタッフにとっては、受審対策によって業務の効率が上がったたり事故を防止する仕組みが整ったりするというメリットがある。さらに提供する医療サービスを向上させるモチベーションアップにもつながる。

半面、効率や安全性を高めるためであっても、従来の慣れ親しんだ診療、看護手順の見直しに抵抗を感じるスタッフもいる。全スタッフが第三者評価を受けることの意義を共有し、一丸となって認定、認証の取得を目指す体制作りが不可欠である。

「第三者評価の受審に際して、施設改善、業務の見直しなどにかかるお金と時間は膨大です。認定、認証を受けたことによる患者数の増加や、効率化による経費削減で相殺しきれない面があることも承知しています。それでも、事業の核心部分である医療の質を向上させることは、長期的に見れば必要不可欠であると言えます」(堀氏)。



順天堂大学医学部附属順天堂医院
病院機能管理室 副室長
順天堂大学大学院医学研究科
教授
堀賢氏

■ 運用効果を確認する「一般病院3」

病院機能評価の「一般病院2」は、特定機能病院以外の病院も認定を受けている。2017年に新設された「一般病院3」は、「主として、高度の医療の提供、高度の医療技術の開発・評価、高度の医療に関する研修を実施する病院または準ずる病院」を対象にしている(表1)。

「特定機能病院でより高度な医療を行うためには、それなりに困難な問題や倫理上の問題があります。『一般病院3』はこういった問題に関する指標の基準を上げたものと感じられました。特定機能病院向けのものが用意されたのであれば、その認定を取得すべきだと考えました」(堀氏)。

病院機能評価の審査は書類審査と「ラウンド」と呼ばれる病院への立ち入り審査で構成される。同院が最初に病院機能評価の認定を受けたときは書類審査とラウンドの比率が9:1だったが、前回の「一般病院2」のときは同7:3、今回の「一般病院3」のときは同6:4と、ラウンドの比重が高まった。

受審の時間も増加している。「一般病院2」では1日半から2日だった日程が、「一般病院3」になると2日半から3日に延びた。その延びた分がラウンドに当てられている。

「前回までは、審査項目に対してどのようなルールで運用しているかというフレームワークを示すだけでよかったのですが、今回はエビデンスまで求められました。具体的な事例を示して、そのルールに則って運用した結果、どのような効果があったかを説明しました。きちんと実践しているかまで確認されたわけです」(堀氏)。

JCIは更新に向けて持続的な改善が必要

JCIは同院が最初に受審したときからエビデンス重視の審査だった。しかし病院機能評価とは視点が異なる。

JCIは先進国、発展途上国を問わず各国の上位2%を認証対象にしている。国によって医療水準が異なるため、医療サービスのレベルを直接評価するのではなく、安全性や医療の質の向上に関する審査項目ごとに「持続的に改善を図れるメカニズム(仕組み)があるか」を評価するのだ(表2)。

ただし、項目ごとにクリアしなければならない最低基準がある。クリアできていない項目数が少なければ、改

表1 病院機能評価の機能種別

機能種別名	種別の説明
一般病院 1	主として、日常生活圏域等の比較的狭い地域において地域医療を支える中小規模病院
一般病院 2	主として、二次医療圏等の比較的広い地域において急性期医療を中心に地域医療を支える基幹的病院
一般病院 3	主として、高度の医療の提供、高度の医療技術の開発・評価、高度の医療に関する研修を実施する病院または準ずる病院

表2 JCIの評価項目

	略	正式名称	日本語訳
1	IPSG	International Patient Safety Goals	国際患者安全目標
2	ACC	Access to Care and Continuity of Care	ケアへのアクセスと継続性
3	PFR	Patient and Family Rights	患者と家族の権利
4	AOP	Assessment of Patients	患者の評価
5	COP	Care of Patients	患者のケア
6	ASC	Anesthesia and Surgical Care	麻酔と外科的ケア
7	MMU	Medication Management and Use	薬物の管理と使用
8	PFE	Patient and Family Education	患者と家族の教育
9	QPS	Quality Improvement and Patient Safety	質の改善と患者安全
10	PCI	Prevention and Control of Infections	感染予防と管理
11	GLD	Governance, Leadership and Direction	組織管理
12	FMS	Facility Management and Safety	施設管理と安全
13	SQE	Staff Qualification and Education	職員の資格と教育
14	MOI	Management of Information	情報の管理
15	MPE	-AMC- Medical Professional Education	医学専門教育
16	HRP	-AMC- Human Research Program	ヒト被験者研究プログラム

善計画を提出して概ね3~6か月以内に改善することを求められる。「認証を受けても、次の更新までに3年しかありませんから、休んでいるヒマはありません」(堀氏)。

持続的に改善が図られていることを示すために、次のようなサイクルの活動を続けている。各診療科、部門が抱えるリスクが高い問題点をリスクアセスメントを通じて同定し、改善策を立案するとともに、改善の度合いを示す指標をQI(品質指標)として個別に設定する。定期的にこの指標をモニタリングして、改善に停滞や逆行が見られないかを確認する。改善が見られない場合は、問題の原因を検討し直し、上記のサイクルを繰り返す。

病院機能評価に加えてJCIの認証を取得した理由を、堀氏は次のように説明する。「当院は、現存する日本最古

のオランダ医学塾を祖とする老舗であり、日本で最も症例を集めている大学病院として、我々が目指している医療の質向上や患者安全の担保を正しい方向で『持続的な改善』として行っているかを国際的な視点から確認するために、JCIを受審しました。他の医療機関との差別化や海外からの訪日外国人取り込み、無駄な業務を省き合理化、効率化を目指すという目的もありますが、それらの優先順位は高くはありません。

* * *

第三者評価の認定、認証取得はコストパフォーマンスから見ればメリットが多いとは言えない。しかし、スタッフに患者の安全と医療の質向上を常に意識させることで、医療機関が自律的に成長していく“体質”に進化させていく手段として有益である。